

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (甲信越)	◎	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・夏祭りや土用の丑の日、お盆期間等もあったが、前年同月比でもプラスになっている。
	◎	都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・開業して50年近いが、8月の客室売上が過去最高となっている。花火大会、大きな祭り、各週の土曜日で、客室単価が10%以上も上がり、販売量も増え、客室総収入が前年実績の20%増加となっている。
	◎	設計事務所（経営者）	販売量の動き	・業務発注件数が増え、利益率の良い業務を選べる環境になり、価格転嫁も実現している。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・8月は学校が休みになり、皆あちこちに出掛ける習慣が昔からあり、多少は活気付いて街もかなりにぎわっている。現状のまま推移することを期待している。
	○	百貨店（経理担当）	お客様の様子	・店舗全体の売上は前年を上回る見通しである。催事、リモデルした化粧品、小型店が堅調に推移している。また、プレミアム付商品券の利用もあり、売上の押し上げに貢献している。ただし、値上げや災害、世界情勢による影響は引き続き不透明であり、不安材料を払拭し切れない。
	○	スーパー（経営者）	それ以外	・売上は前年比100%で横ばい、来客数は8%減少している。客数は減少しているものの、8月から高齢者施設に食材の納品が始まり、1か月たって売上が幾らになるか、売上確保はできているのでうれしい。
	○	スーパー（企画担当）	単価の動き	・賃上げやボーナスの増額等で、多少財布のひもが緩んだかもしれないが、これが持続するかどうかは疑問である。
	○	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・猛暑により、飲料や冷凍商材の動きが上がっている。お盆も例年なら落ち込むが、今年は例年ほど落ち込むことがなかった。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車や電気自動車への補助金等の効果により、新車受注が好調で、供給不安も早期受注に拍車を掛けている。
	○	その他専門店〔酒〕（店長）	販売量の動き	・3か月前と比べて今月の販売量は前年よりも良かった。物価上昇や休みが多かったことで、特にお盆の前半は良かったが、後半は令和8年熊本地震の影響や、令和8年8月千葉豪雨、また、直近では、石川、富山、福井などに豪雨災害があり、落ちてきている。ただし、8月ということで販売量は動いてやや良いのは当然の結果である。
	○	一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・お盆期間は予想外に来客が少なかったものの、前後の平日は安定した来客数があった。
	○	スナック（経営者）	来客数の動き	・物価高で財布のひもが固く余り良くないが、少しだけ上向いてきている。この先消費税減税で食料品は安くなるが、その分割高になる外食は悪くなるだろうと心配している。
	○	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・予約状況や宿泊実績等から判断して、前年より上向いている。当館を利用したいというニーズの底堅さを実感している。ただし、人の動向が天候に左右されやすい業種なので、天候の大きな変動には、絶えず注目している。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・コロナ禍以降、夏休み関連の動きは、お盆等の一部に集中するというよりも、1か月を通して分散する形が続いている。そうしたなかで、今年は月を通して宿泊客の動きが活発で、売上、収支が大幅に伸長している。
	○	タクシー（経営者）	販売量の動き	・運賃改定を行い、営業収益の増加につながっている。
	○	通信会社（社員）	販売量の動き	・引き続き、新規加入者は順調に増えているため問題はないが、リソースの不足もあり、工事自体の遅れが課題になっている。
	○	観光名所（職員）	来客数の動き	・天候にも助けられ、夏休みは国内観光客、特に家族連れが多くにぎわった。今年は県内の各観光地で来客数が多いと聞いている。

□	商店街（代表者）	販売量の動き	・今年の夏は災害続きだが、来客数は前年並みを確保できそうである。客の買上点数は多くないものの、各種値上げが続いているため、客単価が上がっている。
□	一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・季節商材の動きが緩やかになり、7月までの動きは見られない。9月、10月と商材や部材等のメーカーから値上げ情報の通達がきているが、消費者の買い急ぎはみられない。
□	百貨店（店長）	販売量の動き	・アパレル系は苦戦しているものの、高額寝具等の売行きは悪くない。全体としては良くも悪くもない。
□	スーパー（経営者）	来客数の動き	・祭りやお盆のようなハレの日と通常の日との落差が大きい。同様に年配客対象の一律5%割引日への集中も加速しており、節約意識がうかがえる。
□	スーパー（店長）	販売量の動き	・買い回り頻度が低下し、まとめ買いの傾向は継続している。客の購入の仕方をみても、日常使いのものは一段階グレードを落とした商材の構成比が増加している。
□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・当店の客は比較的高齢者が多く、どこかに引っ越したり様々な事情で来店が減り、来客数的に厳しいため、売上も同様に厳しい。
□	コンビニ（店長）	お客様の様子	・前年に続き、気温がかなり高く推移しており、客の動きも変化してきて、やや難しい方向になっている。
□	家電量販店（店長）	来客数の動き	・夏物需要が低下し、前年と比べて来客数が減少している。
□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・今月も車検、一般整備は目標をクリアしているが、車両販売は価格の安い中古車以外は低迷している。物価高の影響により、客がかなり慎重になっている。
□	観光型旅館（経営者）	単価の動き	・今年の夏は前年よりも出だしが悪く、大変心配していたものの、7月中旬から予約が急増し、結果的には過去最高売上を更新する状況である。ただし、来客数、客室販売数は前年とほぼ同じで、売上増加の主な要因は、インターネット販売での単価調整と宿泊税導入による値上げである。現状の価格だと地元客には敬遠されるが、首都圏客には近隣観光地と比べてリーズナブルな価格のため、単価を上げていてもすぐに予約が埋まる。
□	旅行代理店（副支店長）	お客様の様子	・相変わらず動きが鈍い。夏休みも、安近短の旅行が多く、日帰りや自宅で過ごした人も多い。
□	タクシー運転手	販売量の動き	・新入社員が3月に1人、7月中旬に1人入社し、順調に育っているため、今後の売上に期待している。
□	通信会社（社員）	販売量の動き	・少なくとも良くはなっていない。
□	ゴルフ場（経営者）	お客様の様子	・変わらない部分もあるが、個別にはナフサ不足による経営状況の悪化などの話を聞いている。
□	ゴルフ場（副支配人）	来客数の動き	・予約の伸びが弱く、毎月集客のためプレー料金の値下げが必要になっている。
□	その他レジャー施設〔ボウリング場〕（経営者）	来客数の動き	・猛暑といわれるなか、屋外レジャーより屋内が好まれたのか、家族連れや学生でにぎわっている。お盆期間も前年より休日が1日少なかったものの、売上が伸びている。
▲	一般小売店〔文具・事務機〕（経営者）	販売量の動き	・当社は新年度に入ったところなので、前年比では悪いが通年比では若干悪い程度である。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・相変わらず、来客数の減少が続いている。この状態が年単位で続いており、来客への対策ではない何か別の対応が必要だと実感している。
▲	自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・値上げ前の時期でも、来客数が前年割れの状態である。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・昼間に人影のない街は、悪い景気の特徴である。それでも中心街といわれている場所なのに、人影のなさに情けない限りである。閉業する店が多いのも致し方ない。
×	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・物価高の影響か、買い控えが増えている。

	×	遊園地（職員）	来客数の動き	・繁忙期であるお盆は、断続的な降雨の影響により来場者数が伸び悩んだものの、新エリア開業やステージリニューアルに伴うイベントの実施など、各種集客施策を展開し、誘客に努めている。
企業 動向 関連	◎	食料品製造業 （営業統括）	受注量や販売量 の動き	・単価の低い商材に集中しているものの、出荷量が増えている。そのため、金額的には微増であるが、新しい市場に展開できている。
(甲信越)	○	電気機械器具製 造業（経営者）	受注量や販売量 の動き	・受注量が増えており現在の景気は良いものの、特需的な案件もあるため、やや懸念はある。
	○	新聞販売店〔広 告〕（総務担 当）	受注量や販売量 の動き	・折込出稿に関しては、地域によって多少の差はあるものの、スーパー等の新規出店が複数あり、該当店舗だけでなく、周辺の同業からの受注も増え、受注、売上共に前年比プラスになっている。
	□	窯業・土石製品 製造業（経営 者）	取引先の様子	・店頭販売品受注は少ないながら、安定的に推移している。
	□	その他製造業 〔宝石・貴金 属〕（経営者）	受注量や販売量 の動き	・引き続き、今月も催事売上は良かったものの、店頭販売はお盆休みも影響し、来客数が少なく、売上は前年より低下している。結果的には前年並みで変わらない。
	□	建設業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・全体の受注金額に変化はないものの、小口工事の件数が少なくなっている。その分、大口工事が増えている。
	□	金融業（調査担 当）	取引先の様子	・製造業はA I 関連の部品需要が底堅い。I T 関連部品でも一部に持ち直しの動きがみられる。非製造業は観光関連需要が堅調なもの、大型小売店では物価高に伴う消費者の支出抑制から弱い動きとなっている。
	□	金融業（経営企 画担当）	取引先の様子	・観光業等に景気回復の兆しがみられるものの、物価高騰による消費の伸び悩みや不安定な中東情勢等に影響を受ける企業も少なくないため、変わらない。
	▲	食料品製造業 （製造担当）	受注量や販売量 の動き	・徐々に数量が落ちてきている。
	×	*	*	*
雇用 関連	◎	—	—	—
(甲信越)	○	職業安定所（職 員）	求人数の動き	・有効求人倍率が上昇している。
	□	職業安定所（職 員）	周辺企業の様子	・製造業では原材料や人件費の価格転嫁がある程度進んでおり、データセンターやA I 関連の周辺部材の受注にも回復の兆しが確認できる。一方、飲食店では省力化が進み、求人募集が低調に推移するなど、業種によりばらつきもある。中長期的には先行きを懸念したなかでの人材確保の意向がうかがえる。
	□	民間職業紹介機 関（経営者）	求人数の動き	・現場の求人は増える傾向にあり、ハイレベルな求人は減少傾向が目立っている。
	▲	人材派遣会社 （営業担当）	それ以外	・9月に契約満了を迎える方の更新時期がきており、相談内容が、従来よりも給料アップ以外のお金の相談が多い。生活の先行き不安もあり、心配ごとが増えているようである。
	×	—	—	—